

第3グループ【環境・リサイクル分野】

環境・リサイクル分野

みなとタウンフォーラム
第3グループ

第3グループ[メンバー]

熊野御堂 昌子	後藤 未来	下村 太一
高木 是	谷口 郁子	中 裕樹
半澤 千佳子	茂木 まり子	

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

提言にあたって

第3グループ【環境・リサイクル分野】

私たち第3グループでは、メンバーの関心に基づき、①「ごみ減量・資源循環」②「環境保全・美化活動の推進」③「緑や水辺の保全・創出」の3つのテーマについて議論を重ねました。

グループには、環境美化のボランティア活動に参加している人や、ごみ問題や地域の環境美化に高い関心を持った人が集まりました。

マイクロプラスチックが世界的に問題となり、我が国においてもレジ袋が完全有料化するなど、脱プラスチックに向けた取組が進められるとともに、国が改正健康増進法を、東京都が受動喫煙防止条例を施行して、受動喫煙対策を著しく強化するなど、環境・リサイクルの分野を取り巻く状況は、目まぐるしく変化を続けています。また、昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大やデジタル化の進展による社会変化は、地域で排出されるごみの量・種類や環境保全・美化にも影響を与えています。

テーマ①「ごみ減量・資源循環」については、区内のごみ分別について正しく理解されていないことや、既存の取組や循環可能な資源等が区民に知られていないことなどが課題としてあげられ、ごみの現状を理解した上で、地域でごみ減量に取り組んでもらえるよう、ごみの減量に関する教育・啓発を推進するほか、既存のリデュース・リユース・リサイクルに関する区の取組を拡充するだけでなく、周知を強化する必要があると考えました。

テーマ②「環境保全・美化活動の推進」については、美化活動に参加する人が少ないことや、公共空間の美化に対するモラルが低下

していること、国際性の豊かさに起因するルール浸透の困難さなどの課題に対して、誰もが気軽に環境保全・美化活動に参加できる仕組みや環境保全・美化に関する効果的な周知の実施を具体的な取組として考えました。また、既に自主的に美化活動を行っている人への区の支援の必要性など、ボランティア活動に従事するメンバーがいることもあって、盛んな意見交換が行われました。

テーマ③「緑や水辺の保全・創出」については、水辺に対してマイナスなイメージを持っている人がいることや、緑を感じられない地域があるなどの意見があがり、水辺や緑をもっと身近に感じてもらうため、子どもから大人までもが水辺の歴史や環境を学ぶ機会の充実や、視覚的な緑の増加に向けた取組を考えました。

環境・リサイクル分野に関する課題は、一見すると世界レベル、国レベルでの取組が注視されますが、私たち一人ひとりの日々の意識や行動が、課題の解決に向けた大きな意味を持っています。

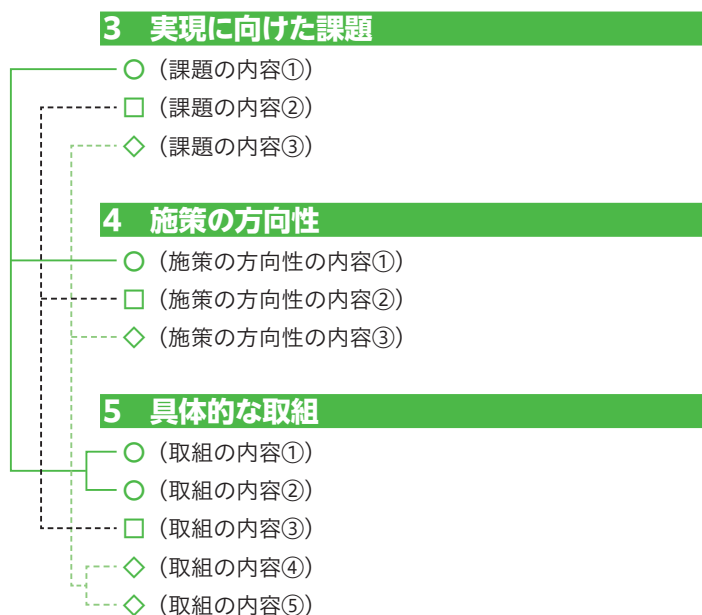
提言にあたっては、国際性の豊かさや事業所・就業者の多さなど、日本を代表する都市のひとつである港区の特長を十分に考慮した上、各メンバーのこれまでの活動や日常生活で日々感じている点を踏まえ、議論を重ねてきました。みなとタウンフォーラムでの提言が港区基本計画に反映されることで、一人ひとりの環境意識が高まり、自主的な行動につながることによって、誰もが心地よい環境に配慮した持続可能なまちになっていることを願っています。

提言の体系

具体的な取組	
【テーマ1】 ごみ減量・資源循環	<ul style="list-style-type: none"> ● ごみの減量（リデュース・リユース・リサイクル）に関する人材育成・啓発の推進 ● 3Rの推進に向けた取組の強化
【テーマ2】 環境保全・美化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが気軽に環境保全・美化活動に参加できる仕組みの構築 ● 環境保全・美化に関する効果的な周知の実施
【テーマ3】 緑や水辺の保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 水辺に親しみを持ってもらうための取組の充実 ● まちなかの緑の充実

提言書の見方

提言書における、実現に向けた課題や施策の方向性、具体的な取組など、各項目間でつながりがあるものについては、記号（○、□、◇等）によって関連性を明らかにしています。



ごみ減量・資源循環

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「一人ひとりの環境意識が高まり、あらゆるものが循環する持続可能なまち」

2 踏まえるべき社会変化

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止や働き方改革に伴うテレワークの推進によって、家庭で過ごす時間が増えており、ライフスタイルが変化している。
- 人口の増加に伴いごみの排出量が増加するとともに、子育て世代の増加など区民の年齢構造が変わることで、ごみの種類にも変化が生じる。
- 新型コロナウイルス感染症が収束していくことで、外国人の居住者や就労者、観光客が増加している。
- 世界的な脱プラスチックの流れに伴い、紙素材等への代替が進むことによって、プラスチックを除くごみが増加する懸念がある。
- 働き方改革、DX化の促進など、電子媒体への移行によるペーパーレス化が加速している。
- 脱炭素社会への動きがさらに加速し、個人や企業における取組の重要性が高まっている。

3 実現に向けた課題

- 自治体によってごみの分別方法が異なり人々の認識として定着しづらいため、ごみの正しい出し方を知らない人が多い。
- 拠点回収等の取組や循環可能な資源・製品が周知されていないことで、リユース・リサイクルができるものがごみとして処理されている。

4 施策の方向性

- ごみ問題をはじめとした環境問題について、地域の人が学び、地域の人に伝えてくれるよう、人材育成を推進するとともに、既存の仕組みや取組の中で、正しいごみの出し方を学ぶ・伝える機会を拡充する。
- みながりデュース・リユース・リサイクル(3R)に取り組めるよう、既存の取組を拡大・周知を強化するほか、芸術など分野の垣根を越えた啓発活動を推進する。

5 具体的な取組

○ごみの減量(リデュース・リユース・リサイクル)に関する人材育成・啓発の推進

- ごみに関する正しい知識のもと、地域におけるごみ減量の取組を推進するため、町会・自治会ごとに中心となる人材を育て、地域住民へ啓発するとともに、小中学校においてごみに関する教育を行うなど、人材の育成を進める。
- 環境に係るイベントのみならず、区の施設や様々なイベントを活用して、ごみ分別アプリやチラシによる、積極的な周知・啓発を行うほか、ごみから再生した製品の情報を発信することによって、ごみ減量の意識を高める。

□3Rの推進に向けた取組の強化

- 家庭の食品廃棄物のコンポストによる堆肥化をはじめとした食品リサイクルの促進など、誰もがリサイクルしやすい環境づくりを進める。
- リユース・リサイクルが促進されるよう、既に行っている衣類の交換会を拡充するほか、既存の拠点回収の周知拡大やおもちゃ等を学校・企業等で身近に回収できる仕組みづくりなど、取組の強化を行う。
- 廃棄されるごみを活用したアート作品やクラフト作品の展示会などを通じて、ごみの減量・利活用に関する情報を発信する。

6 参画と協働の推進

- 地域の住民が環境やごみ問題について自ら学び、率先してごみ減量に取り組む。
- 事業者の協力のもと、ごみの減量や資源循環に向けた最新技術の導入や効果的な情報発信など、民間の力の活用を検討する。
- 資源回収の促進に向けたアイデア等の意見公募を行うなど、地域を巻き込みながら取組を進める。

環境保全・美化活動の推進

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「環境保全・美化活動の輪が広がり、ごみが落ちていない清潔できれいなまち」

2 踏まえるべき社会変化

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少した在勤者や外国人観光客といった来街者が、徐々に回復し再び増加する。
- 持ち帰り飲料のプラスチックごみや、使い捨てマスク、タバコなど、時代や社会情勢とともにポイ捨てされるごみの種類も変化する。
- 大規模な再開発事業によってきれいな公共空間が整備され、開発事業者がその保全を担う区域が増えていく。
- IoTやAIといったデジタル技術を活用した環境美化活動が普及していく。

3 実現に向けた課題

- ごみ拾いといった活動に参加したくても、既存のコミュニティへの敷居が高いイメージから、新たに活動に参加する人が少ない。
- 区民や来街者等について、公共空間の美化に対するモラルが低下している。
- 国によって、ポイ捨てや喫煙に関するルールやモラルが大きく異なっており、外国人の来街者に港区の環境美化ルールが浸透しにくい。

4 施策の方向性

- ごみ拾いなどの環境保全・美化活動の門戸を広げ、誰もが活動に参加しやすくなる仕掛けを作る。
- 来街者や外国人などにも港区の環境保全・美化に関するルールを守ってもらえるよう、効果的な周知啓発を行う。

5 具体的な取組

○誰もが気軽に環境保全・美化活動に参加できる仕組みの構築

- 専用のごみ袋の配布や収集したごみを回収する仕組みの整備など、自主的な活動を促進するための取組を行う。
- より多くの区民、企業等が活動に参加しやすいよう、活動の参加者へのインセンティブの付与や、スポーツチームやインフルエンサーとコラボしたイベントの開催など、ごみ拾いを楽しみながら行うことができる取組を行う。

□環境保全・美化に関する効果的な周知の実施

- ごみ拾いアプリやAI機能付きのトング等のデジタル技術を用いて、収集したごみの量や種類等を可視化するとともに、そのデータを周知啓発といった情報発信に活用する。
- みなとタバコルール等の環境保全・美化に関する区のルールについて、ピクトグラムを用いるなどして、来街者や外国人も含めて誰にでもわかりやすいパンフレット等の周知媒体を作成する。
- シェアサイクルの自転車などに環境保全・美化に関する区のルールを掲示するなど、プラスαのできる取組を増やす。

6 参画と協働の推進

- 区民や在勤・在学者をはじめとした来街者など、多様な人が、区主催に限らず様々な環境保全・美化活動に自主的に参加する。
- 企業等と連携した周知啓発を行う。

緑や水辺の保全・創出

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「すべての人々にとって、もっと水辺と緑に近くなるまち」

2 踏まえるべき社会変化

- 区の緑被率は、再開発事業等に伴い上昇の傾向にある。
- 地球温暖化による植物への影響や世界的な森林破壊などが進行している。
- 近年、ゲリラ豪雨や大型台風など、大きな被害をもたらす風水害が多発している。

3 実現に向けた課題

- 区内を流れる川が認知されていないことはもとより、潤っていない・汚れている印象があり、水辺に対する親しみが薄れている。
- 緑が整備されている場所とされていない場所で差が大きいほか、駐車場や児童遊園などで緑が少なく感じられるなど、緑被率にかかわらず視覚的に緑を感じられない地域が存在する。

4 施策の方向性

- 歴史を知る・学ぶ機会や、水質などの情報発信、水辺でのイベント開催などを通じて、水辺に親しむ機会を増やす。
- 区内の様々な場所に緑を感じられるよう、緑被率の向上はもとより、視覚的なまちなかの緑化を推進する。

5 具体的な取組

○水辺に親しみを持ってもらうための取組の充実

- 子どもたちへの教育をはじめ、多様な人々に向けた歴史や水質に関する学習機会の創出、身近に行える水質浄化の取組の周知、水辺におけるイベントの実施などを通じて、古川をはじめとした水辺に対して親しみや愛着を持ってもらい、「良くしたい」という意識の高まりにつなげる。

□まちなかの緑の充実

- 再開発を契機とした質の高い緑の創出に取り組むとともに、地域における区民や事業者等による緑のさらなる創出・保全を支援する。

6 参画と協働の推進

- ワークショップやイベントを学校や企業と実施するなど、地域ぐるみでの活動として進める。
- 地域の住民が主体的に水辺や緑化について啓発できる仕組みを構築する。
- 他自治体と連携し、区のみならず広域で取組を進める。

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年9月30日(金) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">事務局紹介グループ会議の進め方について分野における現状と課題について検討テーマの選定リーダー、サブリーダーの選出
第2回	令和4年10月21日(金) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第1回グループ会議の振り返り検討テーマ「ごみ減量・資源循環」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第3回	令和4年11月8日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第2回グループ会議の振り返り検討テーマ「環境保全・美化活動の推進」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第4回	令和4年11月18日(金) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第3回グループ会議の振り返り検討テーマ「緑や水辺の保全・創出」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第5回	令和4年12月2日(金) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第4回グループ会議の振り返り第2～4回グループ会議の内容確認各テーマの点検・テーマ間の比較テーマ「ごみ減量・資源循環」の提言内容の調整
第6回	令和4年12月16日(金) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第5回グループ会議の振り返りテーマ「環境保全・美化活動の推進」及びテーマ「緑や水辺の保全・創出」の提言内容の調整
第7回	令和5年1月10日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第6回グループ会議の振り返り提言書案の調整
第8回	令和5年1月20日(金) 18時30分～20時	<ul style="list-style-type: none">第7回グループ会議の振り返り提言書案の調整提言式について

第3グループ

環境・リサイクル分野

- テーマ1 ごみ減量・資源循環
- テーマ2 環境保全・美化活動の推進
- テーマ3 緑や水辺の保全・創出



みなとタウンフォーラム

令和5年3月23日

テーマ
01

ごみ減量・資源循環

第3グループ
環境・リサイクル分野

将来像

FUTURE

一人ひとりの環境意識が高まり、あらゆるものが循環する持続可能なまち



社会変化

- ライフスタイルの変化 ○年齢構造の変化
- 外国人居住者や就労者、観光客の増加
- 脱プラ化、脱炭素社会 ○ペーパーレス化

方向性

ごみ問題をはじめとした環境問題について、地域の人が学び、地域の人に伝えてくれる人を育成するとともに、既存の仕組みや取組の中で、正しいごみの出し方を学ぶ・伝える機会を拡充する

みながリデュース・リユース・リサイクル(3R)に取り組めるよう、既存の取組を拡大、周知を強化するほか、芸術など分野の垣根を越えた啓発活動を推進する

取組



- ごみの減量(リデュース・リユース・リサイクル)に関する人材育成・啓発の推進
- ・地域住民への啓発や小中学校でごみに関する教育を行うなど、人材の育成を進める
- ・環境に係るイベントのみならず、区の施設や様々なイベントを活用して周知・啓発を行う
- ・ごみから再生した製品の情報を発信するなど、ごみ減量の意識を高める

- 3Rの推進に向けた取組の強化
- ・家庭ごみの堆肥化といった食品リサイクルの促進などにより誰もがリサイクルしやすい環境づくりを進める
- ・既存の衣類の交換会などの拡充や学校・企業で身近に回収できる仕組みづくりなど、取組の強化を行う
- ・廃棄されるごみを活用したアート作品などを通じてごみの減量・利活用に関する情報を発信する

参画と協働



- ・地域の住民が環境やごみ問題について自ら学び、率先してごみ減量に取り組む
- ・ごみの減量や資源循環に向けた最新技術の導入や効果的な情報発信など、民間の力の活用を検討する
- ・資源回収のアイデア公募を行うなど、地域を巻き込みながら取組を進める

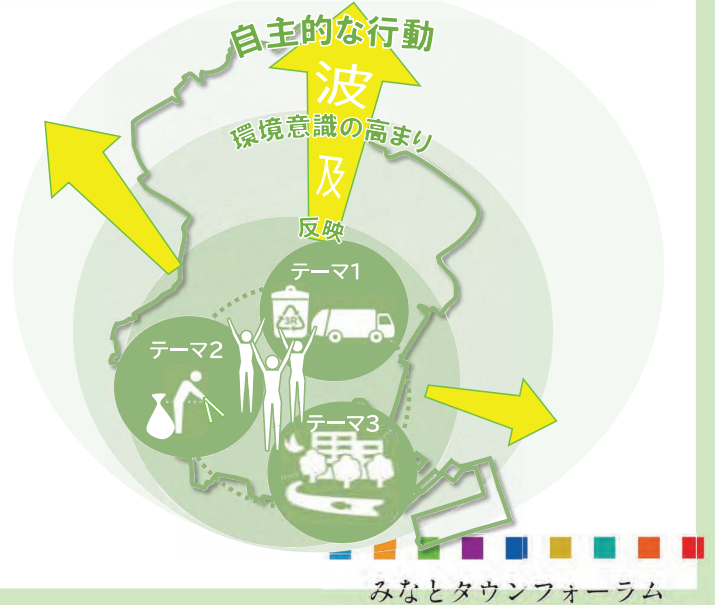
<p>将来像 FUTURE</p>	<p>環境保全・美化活動の輪が広がり、ごみが落ちていない清潔できれいなまち</p>	<p>社会変化</p>	<p>○来街者の回復・増加 ○デジタル技術活用 ○大規模な再開発による公共空間の整備 ○ポイ捨てされるごみの種類の変化</p>
<p>方向性</p>	<p>ごみ拾いなどの環境保全・美化活動の門戸を広げ、誰もが活動に参加しやすくなる仕掛けを作る</p>		<p>来街者や外国人などにも港区の環境保全・美化に関するルールを守ってもらえるよう、効果的な周知啓発を行う</p>
<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが気軽に環境保全・美化活動に参加できる 仕組みの構築 ・専用のごみ袋の配布や収集したごみを回収する仕組みの整備など、自主的な活動を促進するための取組を行う ・より多くの区民、企業等が活動に参加しやすいよう、インフルエンサーとコラボしたイベント開催など、ごみ拾いを楽しみながら行うことができる取組を行う 		<ul style="list-style-type: none"> ● 環境保全・美化に関する効果的な周知の実施 ・ごみ拾いアプリやAI機能のある用具などデジタル技術を用いて、収集したごみを可視化し、周知啓発に活用する ・みなとタバコルールをはじめとした区のルールについて、ピクトグラムを用いるなど、誰にもわかりやすいパンフレット等の周知媒体を作成する ・シェアサイクルの自転車への掲示など、既存の仕組みに対するプラスαによって区のルールを周知する
<p>参画と協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区民や在勤・在学者など、多様な人が、区主催に限らず環境保全・美化活動に自主的に参加する ・企業等と連携した周知啓発を行う 		

<p>将来像 FUTURE</p>	<p>すべての人々にとって、もっと水辺と緑に近くなるまち</p>	<p>社会変化</p>	<p>○再開発事業等に伴う区の緑被率の上昇 ○地球温暖化による森林破壊や風水被害</p>
<p>方向性</p>	<p>歴史を知る・学ぶ機会や、水質などの情報、水辺でのイベント開催などを通して、水辺に親しむ機会を増やす</p>		<p>区内の様々な場所に緑を感じられるよう、緑被率の向上はもとより、視覚的なまちなかの緑化を推進する</p>
<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 水辺に親しみをもちてもらうための取組の充実 ・子どもたちの教育をはじめとした歴史や水質に関する学習機会の創出、水質浄化の取組の周知、水辺でのイベント開催を通じ、古川などの水辺への親しみや愛着をもち、「良くしたい」という意識の高まりにつなげる 		<ul style="list-style-type: none"> ● まちなかの緑の充実 ・再開発を契機とした質の高い緑の創出に取り組む ・区民や事業者等の地域による緑のさらなる創出・保全を支援する
<p>参画と協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップやイベントを学校や企業と実施するなど、地域ぐるみでの活動として進める ・地域の住民が主体的に水辺や緑化について啓発できる仕組みを構築する ・他自治体と連携し、区のみならず広域に取組を進める 		

まとめ

誰もが心地よい環境に配慮した持続可能なまち

みなとタウンフォーラムでの提言が港区基本計画に反映されることで、一人ひとりの環境意識が高まり、自主的な行動につながることによって、誰もが心地よい環境に配慮した持続可能なまちになっていることを願っています。



会議録

みなとタウンフォーラム 環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年9月30日（金）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 大会議室

メンバー：5名

事務局：対応部門関係課長3名（環境課長、地球温暖化対策担当課長、みなとリサイクル清掃事務所長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 検討テーマの選定
- 5 リーダー、サブリーダーの選出
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
3-2	提言の取りまとめイメージ
3-3	前回みなとタウンフォーラム提言書
4	検討希望テーマ集計結果
5	リーダー、サブリーダーの役割について

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局より、第1回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 事務局紹介

事務局より、資料1に基づき、事務局メンバーの紹介を行った。

2 グループ会議の進め方について

○検討スケジュール

事務局より、資料2に基づき、活動日程や内容について説明を行った。

○提言の構成

事務局より、資料3、3-2、3-3に基づき、提言の構成について説明を行った。

3 分野における現状と課題について

関係課長より、港区基本計画に基づき、「環境・リサイクル」に関連する施策や取組について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：港区基本計画の成果指標と各政策との関係性がどういったものなのか興味を感じた。政策の満足度として記載されている目標値が高いのか、低いのか分からない。また、最終的に区長に提言を行う際、この成果指標と各政策の関係性がどう関わるか教えてほしい。

事務局：政策の満足度の数値は、区民意識調査のアンケートにより数値を算出している。数値のみでは捉えにくいのが、当グループに関連する政策の満足度が他の政策と比較して、とりわけ低いというわけではない。政策の推進に当たっては、政策に紐づく施策・事業を数多く展開していくのではなく、区民の満足度向上につながるようなものを検討及び実施していくことが重要であると考えている。今回のグループ会議を通し、皆さんには区民の満足度向上に資する提言を行っていただきたい。

参加者：海をきれいにしていくには時間がかかると聞いたことがあるが、どの程度の時間がかかるのか。

事務局：ニュース等によってお台場の海は大腸菌等が多く、きれいでないというイメージがあるかもしれないが、晴天が続いた場合には、水浴場水質判定基準において上から2番目の基準を満たすこともある。降雨の際に東京湾の水質が悪化するのは、降水量が下水処理場の処理能力を超過した際に、簡易的な処理しかされていない汚水が雨水とともに放流されることがあるため。下水処理施設の管理は東京都が行っているため、区長と都知事の意見交換を通し、二次処理場や高速処理といった汚水処理に関する設備整備を要望している。水質の改善には東京都下水道局との協力は不可欠であるため、ある程度の時間は必要なのではないかと考えている。

参加者：港区のごみ問題に対する取組について、基本計画の最終年度は令和8年度までであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の社会変化等の影響を考慮し、計画の見直しや変更を想定しているのか。

事務局：新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により、粗大ごみ等の排出量の増加はあったもの

の、家庭等から排出されるごみの排出量は減少している。計画の見直しについては、これらの変化の要因を見極めたうえで慎重に判断する必要があると考えている。

参加者：今後、新たに区有施設等を整備する際に、バイオガス発電の導入等を予定している施設はあるか。

事務局：今後整備する施設において、バイオガス発電を導入する予定はない。しかし、家庭で排出され、清掃事務所や東京二十三区一部事務組合で処理されたごみは、焼却の過程で生じた熱エネルギーで発電を行うとともに、その電力を区の施設で利用することで二酸化炭素排出量の削減につなげているため、そのような点での環境配慮は行っている。

4 検討テーマの選定について

事務局が、資料4に基づき、検討テーマの集計結果について説明を行った。集計結果としては、「ごみ問題・資源循環」と「環境保全・美化活動の推進」が同数で最も多く、次いで「緑や水辺の保全・創出」、「地球温暖化対策」が同数で続いている。

議論の結果、以下の3テーマに決定した。

- | | |
|------|--------------|
| テーマ1 | ごみ問題・資源循環 |
| テーマ2 | 環境保全・美化活動の推進 |
| テーマ3 | 緑や水辺の保全・創出 |

(主な意見等)

参加者：港区基本計画を読み、プラスチックの使用抑制と資源循環について大きな興味を持った。特に海洋プラスチック問題が喫緊の問題と考え、1番（ごみ問題・資源循環）を検討テーマとしていきたい。

参加者：ゴミ拾いの活動を個人的にやっており、こうした活動を行っている団体に興味を感じていた。今回のタウンフォーラムを通じて、港区で清掃活動をしたいと思っている人の想いを何らかの形でつなげていきたいと考えていることから、4番（環境保全・美化活動）を検討テーマとしたい。

参加者：私も4番（環境保全・美化活動）がテーマとして良いと考えている。港区は増上寺をはじめ、地方の方が観光地として訪れるような歴史ある名所を有しているが、その周辺的环境が余りにもひどいと感じている。港区は非常に企業が多いので、企業に対しても環境保全や美化活動などの協力をお願いしていくことが重要であると日々考えている。

参加者：提言を行うに当たっては、自分にとって身近で、動き出しやすく、関わりやすいことが大切だと思ったので、一つ選ぶなら4番（環境保全・美化活動）を検討テーマとしたい。他のテーマにも興味があるものの、提言という言葉のイメージに対しては、課題に対し、何かを意見を述べるだけにとどまりそうなので、個人で取り組みやすいテーマとした。

参加者：あらかじめ提示されている4つの検討テーマについて、個人的にはその内容が似通っているように感じる。より詳細、具体的な形で検討テーマを選定する必要があるのではないかと。

事務局：今回の検討テーマは、基本計画に記載されている内容と沿った形にするよう、区でおおまかな形で提示している。テーマを細分化すると、より専門的な知識をもって話し合う必要が生じるなど、議論を進めていくことが難しくなる可能性もある。

参加者：本日欠席しているメンバーの合意なく検討テーマを選定してよいのか。

事務局：次回から、選定したテーマについて議論を行う予定となっている。今回話し合った内容は、

区から欠席したメンバーに共有する。

5 リーダー、サブリーダーの選出について

グループ会議運営にあたってのグループリーダー、サブリーダーがメンバーの互選により選出された。リーダー、サブリーダーより、就任挨拶が行われた。

6 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。次回のグループ会議で話し合うテーマは、事務局とリーダー・サブリーダーとの間で調整することを確認した。

(閉会)

事務局が第1回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月21日（金）18時30分～20時30分
会場：港区役所9階 911会議室
メンバー：6名
事務局：対応部門関係課長2名（環境課長、みなとりサイクル清掃事務所長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者4名

■次第

（開会）

- 1 前回（第1回グループ会議）の振り返り
- 2 第2回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマに関する議論
 - ・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
 - ・実現に向けた課題と施策の方向性
 - ・具体的な取組と区民参画の検討
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第1回グループ会議 会議録
2	提言の校正について（様式）
3	「ごみ問題・資源循環」の取組状況や課題等の関連資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーが、第2回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第1回グループ会議)の振り返り

事務局より、資料1(第1回グループ会議 会議録)に基づき、前回グループ会議の内容の振り返りを行った。

2 第2回グループ会議の進め方について

事務局より、第2回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 検討テーマに関する議論

○検討テーマ(ごみ問題・資源循環)に関する区の実施説明

みなとリサイクル清掃事務所長より、港区基本計画及び資料3に基づき、「ごみ問題・資源循環」に関連する施策や取組について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：港区基本計画を見てみると、今後ごみの減量が目標とされているが、区内の今後の再開発計画を考慮すれば、明らかにごみを出す人口が増えることが予測される。こうした状況を踏まえると、ごみのさらなる減量とリサイクル資源化の推進が必要だと思うが、区はこうした社会変化についてどう考えているのか。

事務局：再開発などにより人口が増え、ごみの総量が増加することは把握している。しかしながら、ごみの総量は経済活動等に影響されるため、将来的な総量を正確に予測することは困難である。

○将来像(めざすまちの姿)と社会変化の検討

メンバーは「ごみ問題・資源循環」に影響を及ぼす社会変化及び情勢について、また社会変化及び情勢を踏まえたテーマに関するめざしたいまちの姿について付箋に記入し、意見交換を行った。

(主な意見等)

参加者：区が刊行している冊子「港区の清掃とリサイクル」が素晴らしい。その冊子の内容を勉強する人を募集、学習会などを複数回設けた上、学んだ成果を区のイベント等を利用して発表するような仕組みを作ることが大切であると思う。毎年実施することで学んだ人が増やしてくことも重要だろう。

参加者：資源循環のモデルケースや具体的な取組について、地方の自治体の実践例をよく聞く一方で、都心での話は聞いたことがないと思う。都心・港区で資源循環の先進的な取組を行うことでより多くの人に知ってもらうことができるのではないかと。

参加者：排出するごみの種類の割合には、世代によって違いがあると思う。したがって、世代に沿った3Rモデルをあらかじめ定めた上、資源循環の啓発を行うのが大切ではないかと思う。

参加者：ごみを収集する上でごみ収集車はもちろん必要となるが、ごみの減量や資源化が進展していったことで、従来ごみ収集車として利用してきた車を別の目的で再利用できたら面白いのではないかと思う。

参加者：地球温暖化を食い止め、地球を守っていくために、日本では港区がリーダーシップをとっ

ていくべきではないかと思う。リサイクルが、港区で働く人、住む人にとって当たり前となり、誰もが港区に誇りが持てるようなまちを目指したいと思う。

参加者：リサイクルが当たり前となることで、従来ごみと考えられてきたものが無くなり、ごみそのものが存在しないまちを目指したいと思う。

参加者：人間が生きていく上でごみを出すことは仕方ないことであるが、ごみは極力燃やさない、埋め立てない、そしてごみが資源であるという意識を持つことが大切であると思う。将来的にはごみを資源化できる施設の設置や資源化に係る技術が生み出されることで、資源が循環するまちを実現できればよいと思う。

参加者：赤坂に住んでいるが、ごみやたばこのポイ捨てが目につくので、そういったことがなくなればよいと思う。

○実現に向けた課題と施策の方向性、具体的な取組と区民参画の検討

テーマに関するめざしたいまちの姿を検討した後、めざしたいまちを実現するうえで直面する課題や問題について話し合い、それぞれ想定される課題や問題について付箋で意見交換を行った。また想定される課題や問題に対し、具体的にどのような取組により解決を図るか、区民参画の実現を視野に入れながら検討を行った。

(主な意見等)

参加者：家のベランダでコンポスト（家庭用生ごみ処理機）を使用しているが、こうして出来た堆肥を公園や小学校の花壇などで使用し、ミニトマトなどの野菜が育てることが出来たらよいと思う。

参加者：よいアイデアだと思う。一方で、出来上がった堆肥を使用する先が少ないという現状があるので、どこで使用していくのかもあらかじめ検討していくべきだと思う。

参加者：高輪ゲートウェイ駅周辺の開発計画における緑化の取組で堆肥を使用できればよいと思う。

参加者：子ども幼い時から習慣として歯磨きすることで大人になっても日常的に継続するのと同様に、環境問題やごみの資源化についても教育を行えばよいのではないかと思う。

参加者：区が配信している「東京都港区ごみ分別アプリ」は立派である一方で、操作方法等がもう少し分かりやすければよいと思う。また、こうしたアプリの存在自体が認知されていないようにも思うので、教育や啓発の方法も検討していくべきではないか。

参加者：区民まつりでリサイクル清掃事務所のブースを設置していたが、積極的に集客をしているようには見えなかった。環境問題やごみ問題について区民に周知を行うよいチャンスなのだからブースを設置するだけでなく、区民が中心となった啓発の推進委員のようなものを配置し、声掛けなど、効果的な集客を行っていくべきだと思う。

参加者：プラスチックにはいくつかの種類が存在し、その種類がバラバラであるとまとめて捨てることできないと言われているが、そういったことを知らなければプラスチックは全て同じものとして捨ててしまうかもしれない。

参加者：区では古着の回収を行っているが、お年寄りだと回収拠点まで持っていくこと自体が難しいと思う。また、回収の時間帯が定められており、働いている人だと難しい。

事務局：改めての案内となるが、みなとタウンフォーラムでは、国や東京都が関わらないと実現が難しいようなものではなく、港区としてできることを念頭に置いて課題やそれに対する取組を検討してほしい。

参加者：区から発生するプラスチックのうち、再生プラスチック等を利用した美術作品の作成や展

示を行い、小学生や中学生が見学に行くような取組を行えば、おしゃれでよいのではないか。

参加者：それはよいと思う。私が所属する特定非営利活動法人でもごみを集めてアートを作ったことがあった。

参加者：可燃ごみとして捨てられてしまうことがあるラップの芯やお菓子の箱等の紙ゴミは紙袋に入れて捨てるのが奨励されている。区が紙ごみの捨て方について記載された専用の紙袋を作成し、全戸配布することで紙ごみの捨て方を啓発していくべきではないか。

参加者：それはよいと思う。そうした取組は、家庭での子どもの教育につながると思う。

参加者：カードゲーム等を通じて子どもへの啓発を行えたらよいと思う。また、区民まつりをはじめとしたイベントのブース等で環境問題についての周知を行う以外にも、東京 2020 大会を契機として電子廃棄物の金属からメダルを作成したように、啓発の見える化を行っていくことが大切だと思う。

参加者：現在、レジ袋が有料化されているが、将来的にはごみ袋の価格を高く設定することでごみ袋の使用抑制やごみの排出抑制につなげるべきではないか。

参加者：昔は学校の運動場に生ごみを堆肥化する装置があり、登校時、生徒が持参した生ごみを先生が回収していた。区でも、出来上がった堆肥を学校の花壇に入れ、トマトやきゅうりを育て、給食で食べるなどの取組が行えればよいと思う。

参加者：港区にはインフルエンサーが多くいるので、そうした方に区の取組を発信してもらうことができればよいと思う。

参加者：確かにインフルエンサーによるPRは、若い世代に大きな影響を与えるのではないと思う。

参加者：学校という場で子ども達に何かを教えることは、スポーツであれば経験者でないと難しいが、ごみの分別であれば、勉強をすれば誰でも教えることができ、区民参画につなげやすいのではないと思う。

参加者：企業やNPOでも環境問題に係る取組を推進してはいるが、その取組に具体性が伴っていないこともあるため、区と企業及びNPOが話し合う際には、より具体性を伴った活動を検討していくべきではないかと思う。

参加者：区役所内の食堂で出た生ごみやプラスチック等のごみについて、区が率先の分別していることをアピールするのはよい実例になるのではないか。

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。次回のグループ会議では「環境保全・美化活動の推進」について話し合いを行うことが決定した。

(閉会)

リーダーが第2回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月8日（火）18時30分～20時30分
会場：港区役所9階 911会議室
メンバー：5名
事務局：対応部門関係課長1名（環境課長）、企画課グループ担当2名、
サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第2回グループ会議）の振り返り
- 2 第3回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマに関する議論
 - ・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
 - ・実現に向けた課題と施策の方向性
 - ・具体的な取組と区民参画の検討
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議 会議録
2	提言の校正について（様式）
3	「環境保全・美化活動の推進」の取組状況や課題等の関連資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーが、第3回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第2回グループ会議)の振り返り

事務局より、資料1(第2回グループ会議 会議録)に基づき、前回グループ会議の内容の振り返りを行った。

2 第3回グループ会議の進め方について

事務局より、第3回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 検討テーマに関する議論

○検討テーマ(環境保全・美化活動の推進)に関する区の取組説明

環境課長より、資料3に基づき、「環境保全・美化活動の推進」に関連する施策や取組について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：港区民の喫煙率は東京都内では低いのではないかと。私の周りでは喫煙している人は少ないように感じられる。

事務局：令和元年度のデータによると、港区民の喫煙率は全国の喫煙率と比較して低い。

参加者：コンビニエンスストアを経営しているが、土日及び祝日に地方から来たお客様は、港区にみたとタバコルールがあることさえ知らないため、毎回喫煙のルールや吸い殻のポイ捨て等を注意する必要があると、大変さを感じている。みたとタバコルールのポスターが貼られている場所が少ないように思うが、具体的にはどういった場所で、どの程度の枚数を掲示しているのか教えてほしい。

事務局：ポスターの掲示場所は、駅については出入り口周辺への掲示をお願いしている。ただし、ポスターは他の掲示物との兼ね合いで掲示スペースの確保が困難であるほか、現在広告物として主流となっているデジタルサイネージは掲出費用が高いなど、掲示場所の拡大に向けた課題が生じている。また、みたとタバコルールの啓発シールが、雨風により劣化してしまうことも課題となっている。港区は外国人をはじめ来街者が非常に多いが、特に全国から区内に集まるタクシーの運転手は、ルールを知らないことが多く、喫煙関係の苦情が多いと感じているため、ルールの周知方法は検討を進めている。

○将来像(めざすまちの姿)と社会変化の検討

メンバーは「環境保全・美化活動の推進」に影響を及ぼす社会変化及び情勢について、また社会変化及び情勢を踏まえたテーマに関するめざしたいまちの姿について付箋に記入し、意見交換を行った。

(主な意見等)

参加者：新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあってか、マスクのポイ捨てが増えているように感じている。

参加者：土日、祝日の翌日の公園は、そこで開催された祭りやイベントの影響もあってなのか、ごみ等のポイ捨てが多く、汚いと感じることが多い。

参加者：シーシャ(水タバコ)のブーム及び専門店増加の影響からなのか、若い世代を中心に喫煙

率が増加しているように感じる。

参加者：私が経営しているコンビニエンスストアでもたばこを購入している人が増えているように感じる。特に若い女性を中心に加熱式たばこを購入している人が増えているように思う。

参加者：区内において、きれいな場所とそうでない場所の差が目立つ。例えば虎ノ門周辺はきれいだが、古川は水が汚いように感じている。

参加者：芝園橋周辺の川は汚いと思う。また、不法投棄も目立つように感じる。

参加者：ごみのポイ捨てがなく、清掃活動がいないまちを目指したいと思う。

参加者：きれいに住めるまちを目指したい。また、気付いた人がゴミを拾い、ごみ出しのルールを守れるまちを目指したいとも思う。

参加者：古き良き時代の歴史的背景と開発等により新しく創造された街並みが両立する、日本を代表とする都市を、清掃などによって支えるまちを目指したい。

参加者：ポイ捨てがゼロのまちを目指したい。また、実現に向け、ごみをポイ捨てしにくいような都市計画を考えていくことも大切であるとする。

参加者：港区全体でなくとも、区内の代表的な場所において、環境分野の世界最先端の技術のようなものが実践されるまちづくりを目指したい。またきれいな場所とそうでない場所のギャップを埋めていけるまちづくりを目指したい。

○実現に向けた課題と施策の方向性、具体的な取組と区民参画の検討

テーマに関するめざしたいまちの姿を検討した後、めざしたいまちを実現するうえで直面する課題や問題について話し合い、それぞれ想定される課題や問題について付箋で意見交換を行った。また想定される課題や問題に対し、具体的にどのような取組により解決を図るか、区民参画の実現を視野に入れながら検討を行った。

(主な意見等)

参加者：ごみ拾い活動を行っている、環境美化活動は、町会をはじめ、熱心に取り組む人のみの活動になってしまっているように感じる。環境美化活動に従事している人とそうでない人との間に意識のギャップがあることが課題ではないか。

参加者：区内の公衆トイレが汚いと思う。今日も区役所の近くの公衆トイレを使ったが、きれいではなかった。渋谷区の代々木深町小公園のトイレはきれいなデザインとなっており、こうしたトイレであれば利用者はきれいに利用するのではないか。

参加者：区内のツツジ等の植栽がされておらず、景観を損ねているように感じる。

参加者：土日、祭日に祭りやイベントが開催された際、休みの翌日にはごみのポイ捨てが増えることに課題を感じている。

参加者：来街者のモラルの低下も問題であるが、区民の公共意識の低下も大きな課題ではないか。

参加者：自動販売機の横に設置されている、カン・ビン・ペットボトル専用のごみ箱に、関係のないごみが入られていることも課題と考えている。

参加者：ごみ拾いをはじめ、環境美化活動に対するポイント制度を創設して、活動に応じたポイントを付与すれば、多くの人が活動に参加するのではないか。

参加者：一人のみでなく別の人と共に活動に参加すれば、更なるポイントを付与するようになれば、より多くの人の参加が望めるのではないか。

参加者：様々な観点から、公園内にごみ箱を設置するのは難しいとは認識している。一方で、ごみ箱を設置したうえで、短いスパンでごみを回収する仕組みを作ることができれば、ポイ捨て

は減るのではないかと考える。

参加者：ポイ捨てされたごみを拾い、ごみを回収する人などに届ければ、ポイントを付与するような仕組みがあれば良いのではないか。

参加者：犬を飼っているが、散歩の際に使う犬専用のペットカート（ベビーカーのようなもの）にごみ拾いなどの環境美化活動に従事している旨を記載した簡単な広告等を吊り下げるのはどうか。それを見た人が、ポイ捨てをしてはならない、という意識になるのではないか。

参加者：よいアイデアとは思いますが、パリなどの海外では、ごみ拾いをしてくれる人がいることで、かえってごみをポイ捨てが増える事例がある。港区で実践した際にどうなるのか関心がある。

参加者：一方で、店舗など、汚い環境を放置することで、環境美化意識が働かず、更に環境が悪化することもある。清掃にはお金がかかるものの、きれいな環境を保つことで、多くの人に「これ以上汚くはしたくない」という意識を持ってもらうことにつながると考える。

参加者：世界で成功した環境美化の事例を多くの人が共有することが大切だと思う。

参加者：環境美化活動に従事することでポイント等をもらえる仕組みづくりはよいと思うが、お金やポイントの付与のみならず、そのような活動をする人が評価され、その評価を対外的に又は区民のステータスとして提示できるような仕組みがあればよいのではないか。

参加者：ごみ拾い等をはじめ、環境美化活動に従事しているコミュニティに対して新たに参加することはかなりハードルが高いと考える。イベント開催など、多くの住民が環境美化活動に参加しやすいような仕組みづくりが大切であると考えている。

事務局：今週の土曜日に、お台場で「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」というイベントが開催される。以前までは海上保安庁が海底清掃を実施するなど、多くの団体や企業が参加していたが、コロナ禍により参加数が減少している。現在、コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたからこそ、区民が参加しやすいイベントを考え、実行することが重要であると考えている。

参加者：ごみ拾いに対し、楽しいイメージをもってもらえるようなイベントを考えていくべきだと思う。スポーツチーム等とのコラボが出来れば、イベントの魅力向上につながるのではないか。また、数年前、私が所属する特定非営利活動法人の活動で芸能人とコラボした際、結び終わるとカボチャのような形になるごみ袋が使われており面白く感じた。区でも結び終われば区の花になるようなごみ袋を作成出来たらよいのではないか。

参加者：区の職員と住民が、共に区内の汚い場所を探して歩くようなツアーを行えたらよいのではないか。

参加者：以前、区が共催者となっている、ごみを拾ったらポイントが獲得でき、合計ポイントを競い合う「スポーツGOMI拾い」に参加したが、あのようなイベントは面白さがあってよいと思う。

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。次回のグループ会議では「緑や水辺の保全・創出」について話し合いを行うことが決定した。

(閉会)

リーダーが第3回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月18日（金）18時30分～20時30分
会場：港区役所9階 研修室
メンバー：4名
事務局：対応部門関係課長2名（環境課長、地球温暖化対策担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第3回グループ会議）の振り返り
- 2 第4回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマに関する議論
 - ・将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
 - ・実現に向けた課題と施策の方向性
 - ・具体的な取組と区民参画の検討
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第3回グループ会議 会議録
2	提言の校正について（様式）
3	「緑や水辺の保全・創出」の取組状況や課題等の関連資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーが欠席のため、サブリーダーが第4回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第3回グループ会議)の振り返り

事務局より、資料1(第3回グループ会議 会議録)に基づき、前回グループ会議の内容の振り返りを行った。

2 第4回グループ会議の進め方について

事務局より、第4回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 検討テーマに関する議論

○検討テーマ(緑や水辺の保全・創出)に関する区取組説明

環境課長及び地球温暖化対策担当課長より資料3-1及び資料3-2に基づき、「緑や水辺の保全・創出」に関連する施策や取組について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：環境に関わるもので、区民が参加できる表彰制度のようなものは存在するのか。

事務局：区内の子どもたちが夏休みに行う宿題を、環境学習として表彰する制度が存在している。

表彰は毎年行われており、子どもならではの視点で環境を捉えたものが多く、非常に興味深く感じている。

参加者：私が所属する団体ではアドプト活動を長く行っており、今回その活動について団体として区から表彰を受けると伺っている。

事務局：環境課でも環境美化の審査会があり、その審査会にて地域で環境美化に係る活動をしている個人及び団体などの活動内容を審査し、表彰する制度がある。先ほど説明のあった活動は表彰の対象になるかもしれない。

参加者：先ほど説明があったお台場の海に張られているスクリーンはどれくらいの大きさなのか。

事務局：横幅が約200メートルで、深さが数メートルである。

○将来像(めざすまちの姿)と社会変化の検討

メンバーは「緑や水辺の保全・創出」に影響を及ぼす社会変化及び情勢について、また社会変化及び情勢を踏まえたテーマに関するめざしたいまちの姿について付箋に記入し、意見交換を行った。

(主な意見等)

参加者：新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあってか、古川の橋下の路上生活者が増えており気になっている。橋の上には首都高の道路が通っているため火事が起きたら心配である。また、海外からの観光で来ている人の目につくのではないかと感じる。

参加者：かつては四季が明確に分かれていたのに、最近は四季が崩れているように感じていて、非常に気になっている。

参加者：区内の再開発により、緑被率は向上しているのではないかと感じる。

参加者：近年、ゲリラ豪雨が増加していて川や海の状況が心配である。

参加者：もっと水辺に近くなるまちを目指したいと考えている。古川やお台場など、区内には水辺

の環境自体は多く存在しており、こうした水辺の環境をいかによいものにしていくかに興味がある。川や海は上流から続いているものなので、水辺の美化は、他の自治体と連携して取り組めたらよいのではないかと考える。

参加者：公園の活用の仕方が増えればよいと考えている。音・香・色など、目的別に公園が作られればよいとも考えている。最近、高齢化が著しくなっており、リハビリテーションの重要性が増しているが、日本ではリハビリテーションが室内で行われることが多い。海外では、屋上を利用することが一般的なので、港区でも施設の屋上をリハビリテーションに活用できるように整備すべきである。

参加者：港区は建築物の緑化が素晴らしいと感じている。港区に引っ越しして来た際、まちに緑が多いと感じた。こうした緑化に加え、新たに建築物を建てる際にはごみ箱とベンチの設置の義務化をお願いしたいと考えている。また、区内の建物の屋上に、畑や緑の豊かな公園を設置できればよいのではないかと考える。

参加者：魚や生き物が生息し、なおかつ泳げるような海や川があるようなまちを目指したいと考えている。

○実現に向けた課題と施策の方向性、具体的な取組と区民参画の検討

テーマに関するめざしたいまちの姿を検討した後、めざしたいまちを実現するうえで直面する課題や問題について話し合い、それぞれ想定される課題や問題について付箋で意見交換を行った。また想定される課題や問題に対し、具体的にどのような取組により解決を図るか、区民参画の実現を視野に入れながら検討を行った。

(主な意見等)

参加者：朝の早い時間帯に、カラスが飲食店等のごみ箱のふたを開けているのが気になる。

参加者：朝方、犬の散歩をするが、カラス数羽がごみ箱を開けているのを確かに見かける。

参加者：経営しているお店が区有地、国有地、私有地の境に位置し、捨てられたごみを自分で処分しなければならない場合があり、ねずみも発生して困ったことがあった。

参加者：芝浦の周辺では、水辺が整備されている場所が多いと思うが、奥のほうだとごみ等により汚れている部分があり気になっている。

参加者：区が運河や河川の水質検査を継続するとともに、東京都が下水道の整備工事を行うことで、水質改善に努めていくべきではないか。

参加者：運河や河川は、場所によって護岸等整備がされていない部分があるため、漏れなく整備を進めていくべきではないか。

参加者：区の環境課では、川や運河の掃除は行っているのか。

事務局：区の、運河や川に関係する部署では、浚渫といって川底に滞留した泥等の汚れを取っているかもしれない。

参加者：川のごみ拾いを行うようなイベントを区で開催しているのか。

事務局：そうしたイベントは、川に直接入ること等による危険が生じるため行っていない。ただし、水辺の清掃としては、お台場におけるビーチクリーン活動などの事例はある。

参加者：ごみ拾いのイベントでも川や運河に着目したイベント実施すればよいのではないか。

4 その他

事務局より次回開催日程等の確認を行った。次回のグループ会議では、テーマ1からテーマ3に

ついて、これまでに検討した内容に基づき、各テーマの点検・テーマ間の比較、内容のブラッシュアップを行うことを確認した。

(閉会)

サブリーダーが第4回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日 時 : 令和4年12月2日（金）18時30分～20時30分

会 場 : 港区役所9階 911会議室

メンバー : 4名

事務局 : 対応部門関係課長2名（環境課長、みなとりサイクル清掃事務所長）、
企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第4回グループ会議）の振り返り
- 2 第5回グループ会議の進め方について
- 3 第2～4回グループ会議の内容確認
・各テーマの点検・テーマ間の比較
- 4 テーマ1「ごみ問題・資源循環」の提言内容の調整
・テーマごとのブラッシュアップ
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第4回グループ会議 会議録
2	討議内容とりまとめシート
3	提言の取りまとめイメージ

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーが第5回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第4回グループ会議)の振り返り

事務局より、資料1(第4回グループ会議 会議録)に基づき、前回グループ会議の内容の振り返りを行った。

2 第5回グループ会議の進め方について

事務局より、第5回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 第2～4回グループ会議の内容確認

資料2(討議内容とりまとめシート)に基づき、3つのテーマの討議において、これまで出された意見が正確に反映されているか、また、各テーマを比較し、テーマごとの水準や抜け漏れがないか等の確認を行った。

(主な意見等)

参加者：テーマ1「ごみ問題・資源循環」の課題である、ポイ捨てや不法投棄に対する取締まりの不足は、テーマ2「環境保全・美化活動の推進」で取り扱うのが適当ではないか。また、テーマ3「緑や水辺の保全・創出」でもごみ拾いへの言及があるが、こちらも同様にテーマ2として検討すべきではないか。

参加者：テーマ3の取りまとめシートを見ると、討議の内容が水辺に関するものに偏っているように思える。昨今の地球温暖化対策推進に向けた取組を踏まえると、緑の保全・創出は大切であり、提言としての検討が必要ではないか。

参加者：テーマ1とテーマ2のいずれでもごみへの言及があるが、テーマ1ではごみの減量及び再利用について、テーマ2ではごみやタバコのポイ捨てを防ぐための施策についての検討を行えば、テーマに即した提言となるのではないか。

参加者：テーマ2の「環境保全・美化活動の推進」という文言は、「環境保全活動」又は「環境保全」のいずれで解釈すべきなのか。

事務局：美化活動とはごみ拾い等でまちをきれいにする取組を指し、一方で環境保全とは騒音や振動、大気汚染をはじめとした公害防止などの取組を指す。例えば、タバコの吸い殻を拾うような活動は美化活動に分類され、区民が生活しやすい住環境を守っていくことは環境保全に該当する。

参加者：テーマ2の「めざすべきまちの姿」の一つ、「神社など歴史(古き良き時代)背景(中川の舟渡など)を生かしつつ、開発等の創造された街もあり、日本を代表するような街並み その為の清掃等」という文言は抽象的なのもう少し具体的にすべきだと思う。

参加者：「ごみは資源、資源が循環する街」という文言は、以前より意識されてきた社会テーマだと思う。提言を行うに当たっては、様々な社会変化に即した、新しい取組を意識したまちの姿をイメージするのが大切ではないか。

参加者：提言として最新のテクノロジーの利用した取組の実施を含められれば、個人的にはよいのではないかと考える。

4 テーマ1「ごみ問題・資源循環」の提言内容の調整

みなとリサイクル清掃事務所長より資料2に基づき、これまでの意見に対する実現の可能性等に関する説明を行った。そのうえでメンバー間でテーマ1「ごみ問題・資源循環」の提言書の内容の整理を行った。

参加者：区の事業として、コンポストを家庭で活用する際に利用できる助成制度のようなものはあるか。

事務局：生ごみ処理機購入に係る助成制度は存在している。当該制度では、購入費の二分の一の助成が可能であり、上限は2万円までとなっている。また、各家庭の排水溝の下部についているディスポーザーに関しても、固液分離できるものであれば助成制度の対象として加えている。

参加者：めざすべきまちの姿「都市型の資源循環モデルケース」について、全国のモデルケースになれば区民としても誇りが持てるのではと考える。今後、具体的な指標及び数値として「特別区内で一位」などが出てくるとよいのではないかと考えている。

参加者：これまでは、「めざすべきまちの姿」を話し合ったうえで「具体的な取組」を検討したが、最初に「具体的な取組」を話し合ったうえで「めざすべきまちの姿」の検討を行ってもよかったかもしれない。

参加者：ごみの収集等は一部事務組合で連携して行っているとは理解したが、港区として、ごみ収集に関する独自の取組は一切できないということなのか。

事務局：本来、容器包装プラスチックを除く製品プラスチックは、専用の処理施設に搬入する必要があるが、港区では区内に独自の処理施設を整備し、処理を行っている。このように、港区独自の取組ができないわけではない。

参加者：ごみの回収等で連携するとは具体的にどういった内容か。

事務局：事業者のごみのうち回収に費用を要する有料ごみにおいて、自治体ごとの費用面を一律にするなど、不公平性をなくすための連携などを行っている。

事務局：補足すると、ごみの回収について、公平性の担保のために23区で連携する必要のある取組がある一方で、区内で完結するものは独自の取組として実施して問題ないと思われる。

参加者：結局のところ、ごみ袋の有料化の実現は難しいという事なのか。

事務局：現状、実現は難しいと考えている。

参加者：区民同士が話し合う機会で、このような取組が出来たらよいと話し合っているのに、それを検討もせずに取り下げるのはよくないのではないか。一部事務組合の連携を考慮すると実現が不可能かもしれないという話はひとまず置いておいて、提言の内容として含めたいうえで、提言内容を検討した結果として実現は難しいといった回答をいただけないか。

参加者：ごみ袋の有料化は難しいことは理解したが、港区から一部事務組合に対し、有料化の検討を働きかけること自体も難しいのか。

事務局：例えばごみ袋の有料化に向けた取組の検討は、ごみの減量を実現するための手段の一つであるが、ごみの減量を目指すための施策として考えると範囲が狭いと考えている。また、港区から一部事務組合に対して働きかけを行うのみでは、区で完結する取組となってしまうため、提言としてはみなとタウンフォーラムの趣旨である区民参画を意識した内容にできればよいと思う。

参加者：ごみの回収や分別の教育・啓発を行う機会の創出の検討に当たり、区が実施しているエコライフフェア等の啓発の機会は既に多くあり、改めて提言を行う意義が薄くなるようでど

うすればよいか迷っている。

事務局：清掃事務所では、小学生向けの出前講座として側面をスケルトン化した清掃車両を小学校に運び入れて内部の構造及び処理の過程を知ってもらう講座を行っている。

事務局：港南小学校では、五年生を対象とした「港南うみまちコミュニティスクール」という取組を通じたごみ問題の教育機会を設けている。

事務局：環境分野に限った話ではないが、区で主催する教育や啓発に係るセミナーは興味のある方が参加する機会が多く、これまで環境分野に興味を持っていなかった方をいかに引き込んでいくかが重要である。今後、より多くの人にセミナー等へ参加してもらうために、どうすれば環境分野に興味をもってもらえるかなどの意見を広く募集すると良いのではないか。

参加者：興味のない人を引き込むためには、環境分野に特化した特殊性の高いイベントより、より多くの人の参加がする普遍的なイベントで、ごみの減量等の環境教育に係るセミナーを行うことも検討していくべきではないか。

参加者：施策の方向性の「生ごみ・減量」の項目は、コンポストを利用した生ごみの減量しか言及されていない。衣類やその他のごみに関しても減量を推進していくといったかたちで提言をまとめていければよいのだが。ただし、施策の方向性を「環境リサイクルの推進」などに変更すると、抽象度が上がってしまうため、具体性を持たせることも重要であると考えている。

事務局：施策の方向性の「生ごみ・減量」の項目において、生ごみや衣類の資源循環の記載があるが、隣の「時代的な世代間の課題」の項目にも小型家電の資源化が記載されているので、うまく統合できないか検討してもよいのではないか。

事務局：資源循環を意識することは大切だが、ごみの排出抑制を前提として資源循環を検討すべきではないか。したがって、コンポストを使用して生ごみからたい肥を作るなど、資源循環の具体的な方法を検討することはもとより、ごみの排出抑制の取組を検討したうえ、それでも出てくるごみをいかに資源循環させるかを考えていくべきだと考える。

参加者：飲食店で食事をした際、持ち帰りを行うような取組が実施できればよいと考えているが、保健所からの許可が下りないと実施は難しいだろうか。

事務局：食品衛生法的な観点から考えると難しいかと思われるが、詳細は分からない。ただし、実際に持ち帰り自体が可能であったり、こういった取組に興味がある飲食店が多いのであれば、検討の余地もあるのではないか。

事務局：清掃事務所では港区食べきり協力店という制度を作っている。

参加者：施策の方向性の「新規性」の項目にて、具体的な取組として「新しいテクノロジーを有効活用した資源循環」などを入れるべきではないか。

参加者：ごみの資源循環を検討する際、その再利用の方法などに対し意見公募を行うのがよいのではないかと思う。そのうえで独自性のある資源循環や再利用の方法を区として確立出来たら面白いのではないかと考える。

参加者：子供服の回収を考えた際、回収する拠点を区民生活にとってより身近な動線の中に置くべきと考える。区役所や区有施設ではなく、学校や保育園に回収拠点を置く事ができればよいのではないかと考える。

5 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。次回のグループ会議では「環境保全・美化活動の推進」及び「緑や水辺の保全・創出」について討議の取りまとめシートに記載された内容をもとに協議を行うことに決定した。

(閉会)

リーダーが第5回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日 時 : 令和4年12月16日（金）18時30分～20時30分
会 場 : 港区役所9階 913会議室
メンバー : 5名
事務局 : 対応部門関係課長2名（環境課長、みなとりサイクル清掃事務所長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第5回グループ会議）の振り返り
- 2 第6回グループ会議の進め方について
- 3 テーマ2「環境保全・美化活動の推進」及びテーマ3「緑や水辺の保全・創出」
の提言内容の調整
・テーマごとのブラッシュアップ
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第5回グループ会議 会議録
2	討議内容とりまとめシート
3	提言の取りまとめイメージ

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーが第6回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第5回グループ会議)の振り返り

事務局より、資料1(第5回グループ会議 会議録)に基づき、前回グループ会議の内容の振り返りを行った。

2 第6回グループ会議の進め方について

事務局より、第6回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 テーマ2「環境保全・美化活動の推進」及びテーマ3「緑や水辺の保全・創出」の提言内容の調整

環境課長より資料2に基づき、これまでの意見に対する実現の可能性等に関する説明を行った。そのうえでメンバー間でテーマ2「環境保全・美化活動の推進」及びテーマ3「緑や水辺の保全・創出」の提言書の内容の整理を行った。

(主な意見等)

参加者：めざすべきまちの姿「ごみのポイ捨てがなく、清掃活動がいない街」を踏まえると、みながごみを捨てないような環境づくりに向けた具体的な取組を検討すべきではないか。

参加者：清掃活動の実施は大切であるが、区として実現可能であること、かつ具体性を意識しながら提言を行うべきではないか。

参加者：課題として、環境保全に対する住民や来街者の意識が低下していることを挙げているが、それに対応させるよう、住民や来街者が年々増えていることも挙げても良いのではないか。

参加者：再開発などで新築されたオフィスビルと、建築されてから時間の経過したビルの周辺環境を比較した際、後者ではごみが捨てられていることが多いように感じている。綺麗な場所とそうでない場所のギャップを感じる人が多い。

参加者：区内で多くの外国人が働くようになったが、ごみの捨て方や環境保全についてどのように教育や啓発を行っていくかが課題になると思う。

参加者：区内のオフィスビルや店舗等で発生するごみが、どのような種類で、どれくらいの量であるか調査できたらよいのだが。

参加者：ごみを拾うためのトングにカメラを搭載し、ごみを拾う度に写真を撮ることで、どの地区で、どのようなポイ捨てごみが多く発生しているのかデータとして蓄積できる仕組みを、とある企業が開発したとテレビで見て、非常に興味深く感じた。

事務局：区で活用しているごみ拾いSNS「ピリカ」は、スマホで拾ったごみを撮影・投稿すれば、どの地区にどういったごみが捨てられているのか、データとして地図上に記録される機能が備わっている。

参加者：既に取組が行われていることは知らなかった。このような取組は住民参加につながるのではないかと考える。

事務局：奈良県生駒市でも類似した取組がある。ごみ拾いSNS「ピリカ」の課題は、まずアプリをダウンロードするひと手間があることと考えている。

参加者：ごみを拾ったとしても、手軽に捨てられるようなごみ箱がないと不便ではないか。

事務局：企業が集めたごみを捨てようとする、産業廃棄物が含まれていることで、より高い費用がかかる可能性がある。

参加者：港区では、事前申請を行えば、ボランティアなどが拾ったごみを回収してくれる仕組みがあるが、毎回紙の申請書を提出する必要がある、その場で拾ったごみを気軽に捨てられるような制度や仕組みはないと思う。

事務局：環境保全や美化活動に対する住民意識を、教育・啓発によって高めていくことも大切だが、すでに意識の高い住民のごみ拾い等の取組がしやすくなるような支援も大切なのではないか。

参加者：町会や団体のごみ拾い等の取組だけでなく、個人の活動や取組を評価・支援するような仕組みがあればよいと思う。

参加者：拾ったごみを手軽に捨てられる仕組みがあったとして、知らない人から見れば単にごみを捨てているようにしか見えないため、個人の取組が上手く評価されないようにも感じてしまう。

参加者：区内に、ボランティアが拾ったごみを回収できる拠点を設置し、持参に当たって自主的なごみ拾いであるかどうかを判別できるようにすれば、個人の活動をより正確に評価できるのではないか。

参加者：いかにしてごみ拾いの参加のハードルを下げていくかが課題なのではないかと思う。

参加者：みなとタバコルールは、タバコのポイ捨て等に嫌悪感を強く感じている人には認知されていると思うが、制度自体を知らない人たちに対して、ポスター掲示以外にどのように周知を行っていくかが課題であると考えている。

参加者：他自治体でもみなとタバコルールのような取組はあるのか。

事務局：港区では全面禁煙としているが、他自治体では、ポイ捨て禁止をルール化している場合と、重点区域を定めて路上喫煙を禁止している場合に分かれる。例えば横浜市では人が多く集まる繁華街では禁煙、住宅地域では路上喫煙は認めるが、ポイ捨ては禁止としている。

参加者：現在、区では、どの地区にどういったごみがポイ捨てされているかなどの調査は行っているか。

事務局：過去に赤坂地区総合支所では、ごみ拾いSNS「ピリカ」を利用して、どこでどのようなごみがポイ捨てされているかといった調査を行っている。ただ、ごみのポイ捨ての実態を把握し、清掃が行ったとしても再び同じ場所にポイ捨てされてしまうことがある。区としては、ごみ出しルールの浸透やごみの排出抑制のよりよい手段を考えていくことが重要であると考えている。

参加者：繁華街で清掃活動及びごみの回収等をされていると聞いたがどの程度の成果が出ているのか。

事務局：緊急事態宣言が出ていた際には、ごみの排出量は減っていたが、現在では新橋等の繁華街で多く排出されている。区では、こうした現状に対してごみの回収を行っているが、ごみを排出する側の排出抑制の意識を高めないと問題の解決は難しいのではないかと考えている。

参加者：ごみの排出量をデータ等で可視化できるようにすれば、抑制しようという意識が働くのではないか。

事務局：調査と発信を両方行うことが大切ではないかと考える。現在はごみの排出量を調査するのみに留まってしまっているが、企業等とタイアップして排出抑制の情報を発信していくこ

とが必要ではないかと考えている。

参加者：区では、港区に働いている外国人に対し、環境保全等に関するわかりやすいパンフレット等を作成しているか。

参加者：区内のホテル等に、喫煙に関するルール等を記載した「とっておきの港区」というパンフレットを置かせてもらうなどのかたちで啓発を行っている。

参加者：芝浦港南地区総合支所では運河の保全に力を入れているように思うが、古川に関しても同じように水質の保全を行えたら良いのではないかと。

参加者：事業所の屋上等を積極的に利用して、野菜畑を設置するのが良いのではないかと。

参加者：再開発等に伴う、いわゆる整備された緑もいいが、より多様性のある緑の創出ができればよいのだが。

参加者：建築物の屋上に畑等の緑のスペースを設けた際に、どの程度の二酸化炭素を削減できるかというデータはあるのか。

事務局：緑がある一定量増えた際に、二酸化炭素がどの程度削減されるかを示すデータは存在している。

参加者：古川の水質に関しては、単によくするというよりは昔の古川の美しさを取り戻すということテーマとして掲げることが大切なのではないかと。また、古川付近に素敵なカフェ等を創出できればよりよいのだが。

参加者：かつての美しい古川の話を知れば、もっときれいにしたいという思いが生まれるのではないかと。

参加者：水質をきれいにするには、そのためのきっかけが必要であるため、まず多くの人に古川周辺の水辺に関心を持ってもらうことが大切なのではないかと。

参加者：海外の河川等において、水質改善につながった事例があればぜひ知りたい。

参加者：古川は他自治体とも繋がっているのだから、関係する自治体とうまく連携を取りながら水質の改善を目指すべきではないかと。

参加者：街路樹の整備はしっかりされているように感じるが、整備のしすぎなのか不自然さが目立つときがある。また、住民が家の前に鉢植えを置くことは法令上可能なのか。可能であれば緑も増えて良いのではないかと。

事務局：港区の緑の課題として、まとまった緑は存在している一方で、今後はそこに生息する生き物が行き来できるような緑のネットワークを作ることが大切であると考えている。現在、学校内のプールに生息するヤゴを救出する取組など存在している。

参加者：地域ぐるみでの緑の創出が非常に重要だと思う。実際の緑の多さはもとより、視覚的、体感的な緑を増やしていければ面白い。

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。次回のグループ会議では「ごみの減量・資源循環」、「環境保全・美化活動の推進」及び「水辺の保全・創出」に関する提言書の内容を確認することに決定した。

(閉会)

リーダーが第6回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和5年1月10日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：5名

事務局：対応部門関係課長1名（環境課長）、企画課グループ担当2名、
サポートメンバー1名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第6回グループ会議）の振り返り
- 2 第7回グループ会議の進め方について
- 3 提言書案の調整
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第6回グループ会議 会議録
2	提言書案

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーが第7回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第6回グループ会議)の振り返り

事務局より、資料1(第6回グループ会議 会議録)に基づき、前回グループ会議の内容の振り返りを行った。

2 第7回グループ会議の進め方について

事務局より、第7回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 提言書案の調整

資料2に基づき、これまで討議してきた意見や意図が、提言書に反映されているか確認を行った上、気になる点について発言し、提言書の内容調整を行った。

(主な意見等)

○テーマ1「ごみ減量・資源循環について」

参加者：「具体的な取組」の「環境に係るイベント以外で」は、環境啓発を目的にしたイベントのみにとどまらず、その他のイベントも活用するべきではないかという意図であったが、この表現ではその意図が伝わりにくいため、表現を変更するべきではないか。

参加者：全体として見ると、ごみの分別等の啓発や教育に力を入れることが記載されているが、討議で上がった「ボトル to ボトル」のような、分別や再利用の新しい手法を取り入れることに関する内容が記載されていない。

参加者：リサイクルセンター等で新しい処理技術を取り入れていくような話題があったが反映はされていない。

参加者：区民に対する分別等の啓発や教育に当たっては、事前の知識として、ゴミ問題の現状や問題を理解してもらう必要があり、データなどで示すことが出来ればなおよいと思う。

参加者：「社会変化」について、区の在勤者や外資系企業の事業所が年々増加していることで、区のごみの分別ルール等を知らないが増えていることに関する記載がない。

参加者：「3R推進に向けた取組の強化」における食品等の堆肥化について、3R推進のための手段としてはやや限定的にも思える。

○テーマ2「環境保全・美化活動の推進について」

参加者：「実現に向けた課題」のごみ拾い等の活動に対する「既存のコミュニティへの敷居が高い」という記載は、すでに活動に従事している人の熱意の高さが、新たな参加を妨げているように捉えられるのではないか。

参加者：「施策の方向性」の「環境保全・美化活動参加への敷居を下げる」という表現は、既に活動している人に変化を求めているように受け取れるため、プラスの表現に変更してほしい。

参加者：「誰もが気軽に環境保全・美化活動に参加できる仕組みの構築」の内容が分かりづらい。また、「収集したごみの区による回収と分別など、」は、収集した後の話なので、あくまで誰もが容易にごみを拾えることに焦点を当てるべき。

参加者：「参画と協働」の「多様な団体」について、実際に参加するのはあくまで「人」であるため、

「人」に焦点を当てた内容に修正してほしい。

参加者：同様の部分で、単に区のイベントに参加するだけのように受け取れる。より多くの人が様々な活動に自主的に活動する、といった趣旨に修正してほしい。

○テーマ3「緑や水辺の保全・創出」

参加者：「具体的な取組」の「まちなかの緑の充実」は、現状に取組にとどまるように感じられるため、「新たな」緑の創出といった表現に変更してほしい。

参加者：「具体的な取組」の「水辺に親しみを持ってもらうための取組の充実」は、大人の世代に向けた教育に限らず、将来世代のための教育としての要素を強く出してほしい。

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行った。次回のグループ会議では、今回の意見を踏まえ修正した提言書案を確認することが決定された。

(閉会)

リーダーが第7回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日 時 : 令和5年1月20日（金）18時30分～20時
会 場 : 港区立エコプラザ 1階 ラーニング・ルーム
メンバー：4名
事務局 : 対応部門関係課長3名（環境課長、地球温暖化対策担当課長、
みなとりサイクル清掃事務所長）、企画課グループ担当1名、
サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第7回グループ会議）の振り返り
- 2 第8回グループ会議の進め方について
- 3 提言書案の調整
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第7回グループ会議 会議録
2	提言書案

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーが第8回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第7回グループ会議)の振り返り

事務局より、資料1(第7回グループ会議 会議録)に基づき、前回グループ会議の内容の振り返りを行った。

2 第8回グループ会議の進め方について

事務局より、第8回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 提言書案の調整

資料2に基づき、第7回での意見や指摘が、提言書に反映されているか確認を行った上、気になる点について発言し、提言書の内容調整を行った。

(主な意見等)

○テーマ1「ごみ減量・資源循環について」

参加者：具体的な取組として「環境に係るイベントのみならず、様々な場を活用して」とあるが、本来意図していることは環境に関連するイベント以外のイベントにおいても環境に係る教育啓発を推進すべきということなので、わかりやすく「様々なイベント」と表現したほうが良いのではないか。

参加者：「区の施設や様々なイベントを活用して」という表現のほうがわかりやすいのではないか。

参加者：異議なし。

参加者：以前の討議で、ごみの分別アプリが広く知られていないことが課題として挙げられた一方で、具体的な取組には言及がなく、不整合だと感じる。分別アプリについても教育啓発の手段として盛り込むべきではないか。

参加者：そもそも、課題の冒頭にごみ分別アプリの言及があると、それ自体が解決すべき大きな課題のように感じるのではないか。

参加者：課題中の記載を削除し、具体的な取組における手法の例示として記載すればよいのではないか。

参加者：異議なし。

参加者：「参画と協働」にて「地域の住民自らが率先してごみ減量に取り組めるよう、区民主体の参画と協働を推進する」とあるが、やや抽象的な表現であるため改めるべきではないか。

参加者：そう思う。「地域の人のごみ問題について学び、積極的にごみ減量に取り組む」といった表現のほうがわかりやすいのではないか。

参加者：異議なし。

参加者：「提言にあたって」における「一人ひとりの環境意識が高まり、誰もが心地よい環境に配慮した持続可能なまちになっていることを願っています。」の表現は、「環境の意識が高まること」から「持続可能なまち」になることが唐突であるように思うので、意識の高まりによって、みなのも主体的な行動につながる、といった内容に修正したいと思う。

参加者：異議なし。

事務局：本日欠席のメンバーから、「社会変化」に対して「脱炭素化などの要素を入れるべきではないか」とのご意見をいただいている。提言書に反映してよいか。

参加者：異議なし。

○テーマ2「環境保全・美化活動の推進について」

参加者：「提言にあたって」の「区内のごみ分別について正しく理解されていない」の記載について、以前メンバーから、区のごみ分別は進んでいる、といった発言もあったが、この表現のままではよいか。

参加者：あくまで、メンバーが課題として認識していることであり、ごみの分別を正しく理解していない人が一定程度いることも事実なのでこの表現のままではよいと思う。

参加者：異議なし。

事務局：「リユース」「リサイクル」に対応する言葉として、「再利用」が使われているが、正しくは「再使用」「再生使用」であるため、表現を調整してはどうか。

参加者：異議なし。

事務局：本日欠席のメンバーから、「社会変化」において「IoTとAIには説明文が必要ではないか。」とのご意見をいただいている。提言書に反映してよいか。

参加者：異議なし。

○テーマ3「緑や水辺の保全・創出」

参加者：「提言にあたって」の「水辺や緑をもっと身近に感じてもらうため、子どもから大人までもが水辺に親しみを持ってもらうための機会の充実」という表現について、親しみを持ってもらうだけでなく、歴史を知ってもらうことも大事だと思う。また、「水辺や緑をもっと身近に感じてもらうため」から「水辺に親しみを持ってもらうための機会」とつながる文章は、表現が重複しているため、後段を「歴史や水辺を学ぶ機会」と変更してはどうか。

参加者：異議なし。

参加者：「具体的な取組」の「大人に対する学習」は、対象を限定しているように感じる。大人が学ぶことはあくまで大前提だと考える。

参加者：「子どもたちへの教育」という表現は残し、学習機会の創出については対象を限定せずに記載すべきではないか。

参加者：異議なし。

4 その他

事務局より提言式の日程等及び提言式に向けた今後の活動についての確認を行った。

(閉会)

リーダーが第8回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上